



はしか（麻疹）流行の現状

5月から、麻疹が関東地方を中心に流行しています。麻疹の流行は2001年にもみられており、今年はそれに比べたら小規模の流行です(図1)が、今年の麻疹の流行の特徴は10代後半から20代にかけての成人麻疹がこれまでになく増加したこと(図2)です。6月になり麻疹の報告数は全国的には減少傾向になってきており、ピークは過ぎたようです。しかし、大阪大学では数人の麻疹の学生、職員の発生が続いており、大阪府でも減少傾向になく、**病院でもまだ嚴重な注意が必要です。**

麻疹は空気感染でもあり、感染力も強く、特に小児科などの外来、病棟ではお見舞いの方を含めて嚴重な注意が必要です。

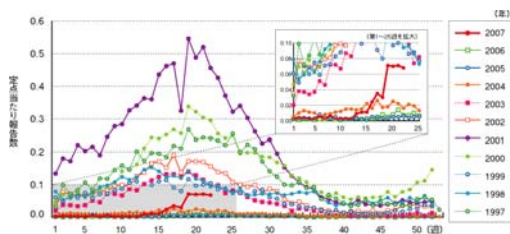


図1. 麻疹の年別・週別発生状況(1997年～2007年第22週) (国立感染症研究所)

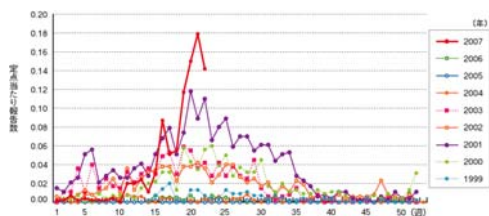


図2. 成人麻疹の年別・週別発生状況(1999年～2007年第22週) (国立感染症研究所)

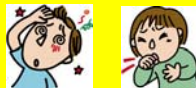
発熱のある人、咳のある人、発疹のある人は、外来受診時にすぐに総合受付あるいは外来受付に申し出ていただき、サージカルマスクの着用と感染制御(トリアージ)外来への誘導が必要です。

感染制御部では新人職員は毎年、それ以外の職員は平成17年に麻疹、水痘、ムンプス、風疹の抗体価の測定と陰性者へのワクチン接種を行なっています。都合で抗体価の測定を行っていない方、ワクチンの接種を受けていない方は、至急抗体価の測定およびワクチンの接種を各自医療機関で受けてください。毎年5月から6月にかけて麻疹の流行が繰り返されており、今後も注意が必要です。

患者様へ

麻疹(はしか)が流行しています!

①発熱 ②咳



③発疹



①発熱 ②咳等の風邪症状 ③発疹のある方は、総合案内へお申し出下さい。